

# 千人を超す聴衆が集い、ガラスCDなど高音質CDを堪能！ 横須賀芸術劇場で「大劇場で聴くレコード・コンサート」

岩崎洸氏が恩師カザルスのガラスCDとの協演

1月28日（土）に「大劇場で聴くレコード・コンサート」が、優れた音響で定評のある横須賀芸術劇場（2000人収容）で行われ、1000人を超す聴衆が詰めかけて、今話題のガラスCDなどの高音質CDを、最高級のオーディオ・システムで堪能した。

司会と解説は音楽評論家の諸石幸生氏がつとめ、第一部はアンセルメ指揮ファリャの「火祭りの踊り」（スイスロマン管弦楽団=1961年録音）ではじまり、アメリングのシューベルト「シルビアに」（1973年録音）などの歴史的な録音と共に、2011年度レコード・アカデミー賞を受賞した、ミンコフスキー指揮のハイドンの交響曲「軍隊」などの最新録音も含めて7曲が演奏された。

第2部は、今話題のガラスCD（Extreme HARD GLASS CD）を試聴。開発者の福井末憲（N&F）からガラスCDが音質に優れている仕組みや、ガラスCDが人類の遺産ともいえるべき歴史的音源の保存にふさわしいメディアであることなどが紹介されたあと、パブロ・カザルスが1936年に録音したバッハの無伴奏チェロ組曲第3番の「プレリュード」「ブーレ」「ジグ」の3曲が演奏され、さらにカザルスに師事した岩崎洸氏が、同3曲を名器ストラディヴァリで演奏して会場を沸かせた。

最後は、20万円の高価格でも話題となった、カラヤンの第九（ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団=1962年録音）の最終楽章をガラスCDで聴いてしめくくった。

ガラスCDは、同一のプレス原盤でつくられたノーマルCDとの比較試聴も行われ、ガラスCDとの音質の差に多くの聴衆が驚きの声を上げた。

終演後には熱心なオーディオ・ファンが会場ロビーに設けられたガラスCDコーナーで、直接ガラスCDに手をふれたり、開発者の福井末憲氏にさらなる説明を求めたりした。

予想をはるかに超える1000人も聴衆が集まった背景には、優れた録音を高音質で聴きたいという多くの人の欲求の表れであり、今後、全国のホールでの開催が期待される。



使用機材を説明するD&M マランツ音質担当マネージャーの澤田龍一氏 右隣＝諸石幸生氏



バッハの無伴奏チェロ組曲第3番を演奏する  
岩崎洸氏＝恩師カザルスのガラスCDとの協演



諸石幸生氏の質問に答える、ガラスCD  
開発者の福井末憲氏（N&F）

- タイトル：大劇場で聴くレコード・コンサート
- 開催年月日：2012年1月28日（土）14:00開演
- 司会・解説：諸石幸生（音楽評論家）  
解説：福井末憲（録音エンジニア）
- 特別演奏：  
岩崎 洸（チェロ）  
バッハ 無伴奏チェロ組曲 第3番から
- 使用機材：  
スピーカーシステム B&W 800 Diamond（2台）  
パワーアンプ マランツ MA-9S2（2台）  
プリアンプ マランツ SC-7S2  
SACD/CDプレイヤー マランツ SA-7S1  
使用ケーブル オーディオクエスト SKY, EVEREST ほか
- 主催：公益財団法人横須賀芸術文化財団
- 後援：株式会社ディーアンドエムホールディングス
- 協力：有限会社エヌ・アンド・エフ
- 全席自由：500円



セーラー万年筆とN&Fの共同事業で制作・発売された  
ガラスCD（Extreme HARD GLASS CD）



カラヤンの第九（ユニバーサル ミュージック IMS発売）